

を問う



勝部 博史

路線バス補助制度見直しと交通弱者対応は 乗合タクシー試験運行

勝部 広域路線バスの補助制度を県は平成十八年度十月運行分より、抜本的に見直す案を示しているが、見直しの想定される路線は、また先般実施した路線バス調査の状況はどうか、地域交通会議を設置する計画があるがいつ頃か、メンバーはどうか。交通弱者の対応はどのように考えているか同う。

町長 県が示している見直し案は、伯耆町内では、二部線と、岩屋谷線が該当する。実態調査の結果は、0人から6人までとなっている。

(仮称)地域交通会議は、行政、利用者、交通事業者等のメンバーで地域交通について検討する、今後早い時期設置する、交通弱者対応の移動手段



岸本地区循環バス

確保については伯耆町にあつた形で検討する。

勝部 町内の循環バスの廃止、縮小等見直しについてはどう考えるか。

町長 地域交通会議で検討し、廃止・縮小等含めた議論を行っていく。

勝部 大倉地区を対象に、予算化されているタクシーのテスト

で運行する。

テスト期間は四月以降早い時期より半年間とし、利用状況をみて今後の実施方法や実施エリアを決める。

運行は、町内のタクシー事業者に依頼する。

運行はオンデマンド方式か、運行の時期、方法やタクシー会社はどこか。

町長 地区を限定したオンデマンド方式で実施する。該当集落の方と協議し、運行曜日と時間を決め、利用者が事前に電話予約する方法

定住化対策について

勝部 少子、高齢化、過疎問題を抱えて、定住化対策は重要問題と思う。県西部広域圏での対応と同時に伯耆町として、定住化対策が必要と考えるが。

町長 伯耆町総合計画の中でも少子、高齢化対策を最重点課題と捉えている。

子供を安心して生み育てられる環境の整備、定住化対策としては、住環境整備や産業振興など重点的に行う。

勝部 「団塊の世代」の退職が来年から本格化するが、本町に定住化を働きかける方策は。

町長 田舎暮らしへの需要も高まると予想されるので、就業の場の確保も含めて、人口減少の抑制にむけて検討する。

勝部 企業誘致の専門職を置き、企業訪問を行い誘致活動の活発が必要と思うが。

また雇用の創出面で、地元の生産品を生かした食品加工企業の誘致が有用と思うが。

町長 県と連携して誘致活動に取り組んでいく。今後、積極的に誘致活動を展開する。